

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

<目次>

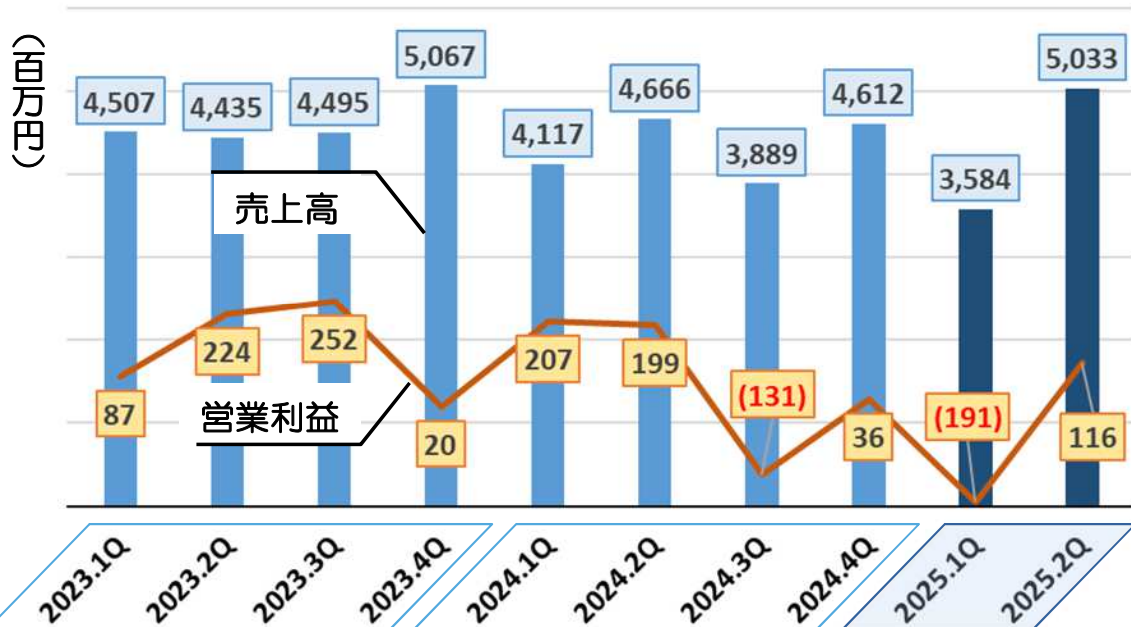
1. 2026年3月期 第2四半期 決算概要
2. 通期連結業績予想、配当予想
3. TOPICS

2025年11月14日

1. 2026年3月期 第2四半期 決算概要

2025年度第2四半期 連結決算概要

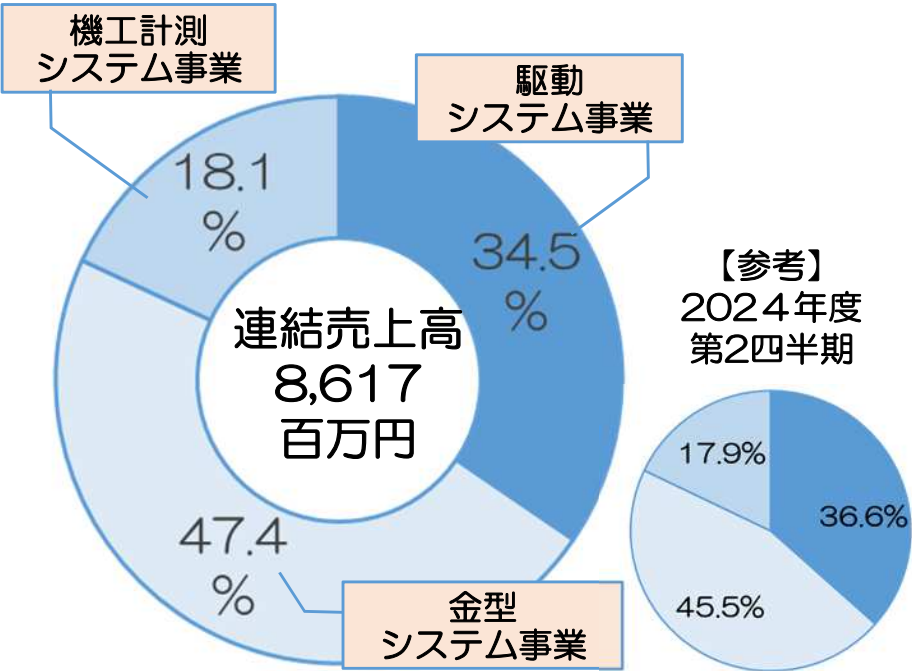
(単位：百万円)	2024年度 第2四半期累計	業績予想 25年5月13日付	2025年度 第2四半期累計	増減 (前年同期比)	増減 (業績予想比)
受注高	9,506	-	10,012	+506	-
売上高	8,783	9,900	8,617	△166	△1,283
営業利益	406	210	△74	△480	△284
経常利益	308	130	△87	△396	△217
親会社株主に帰属 する当期純利益	209	60	120	△88	+60



- ◆ 駆動システムは半導体・液晶関連装置市場向け商品の調整局面が継続して対前年減収となった。また、金型システムは対前年増収となったものの、EV減速の影響による車載用モーターコアの売上減や中国レアアース(希土類)の輸出規制影響で業績予想に対して減収となったため、全社として前年同期・業績予想から減収となった。
- ◆ 営業利益は、売上高減少に加え、品種構成差等が大きく影響し営業損失を計上。一方、親会社株主に帰属する中間純利益については、投資有価証券売却益を計上したことにより、黒字を確保。
- ◆ 受注高については、半導体・液晶関連装置市場向け駆動システム商品の受注低迷の状況が続いているものの、機工・計測システム商品において特定顧客からまとまった受注があり、対前年同期比で増額となった。

単位：百万円	受注高 (前年同期比)	売上高 (前年同期比)	営業損益 (前年同期比)
駆動システム事業	2,903 (Δ223)	2,979 (Δ233)	Δ154 (Δ193)
金型システム事業	4,745 (+324)	4,091 (+91)	127 (Δ338)
機工計測システム事業	2,378 (+411)	1,560 (Δ16)	Δ40 (+39)

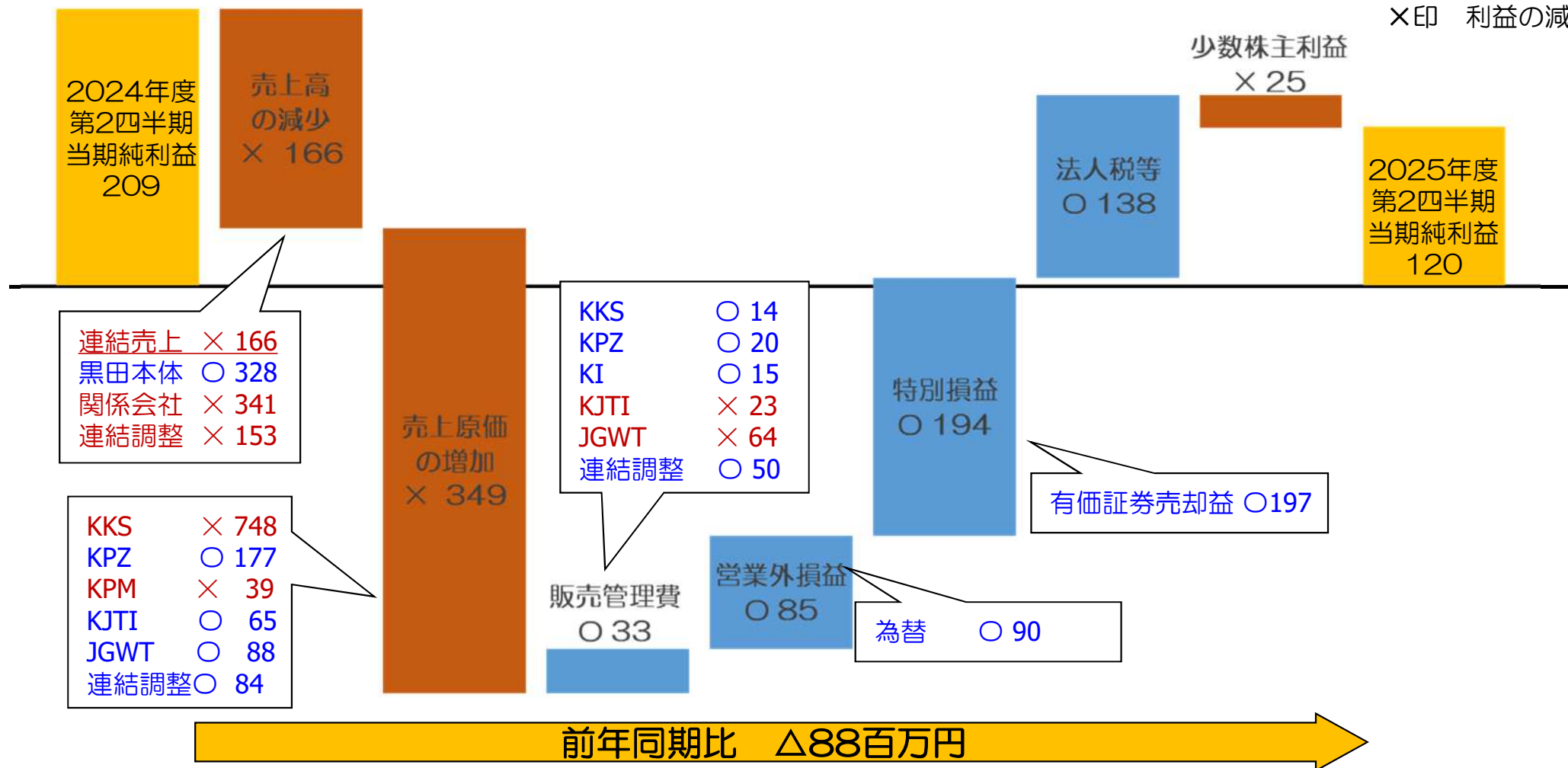
- ◆駆動：半導体・液晶関連装置市場向け商品の調整局面が継続しており、加えて欧米子会社の受注低迷の影響等もあり受注高は減少。売上も期初受注残高の減少の影響で減収。収益面では利益率の改善に努めたものの、欧米子会社の売上高の減少、単体における品種構成差等の影響により営業損失を計上。
- ◆金型：車載用及び家電用モーターコア等が減少したものの新プロジェクト関連設備等の受注が寄与し受注高増。売上高は、車載用モーター向け金型の減少や中国のレアアース（希土類）輸出規制で磁石部品の入荷停止影響があったものの、新プロジェクト関連設備等の寄与により増収。一方、営業利益は、品種構成差等が大きく影響したことから減益となる。
- ◆機工計測：受注高は精機商品において特定顧客からまとまった受注があり増加。一方売上高は、工作機械の売上減少の影響もあり減収となる。収益面では利益率の高い精機部門のシステム商品の売上寄与等により、営業損失となるも前期からは改善。



前年同期比 連結当期純利益の変動要因

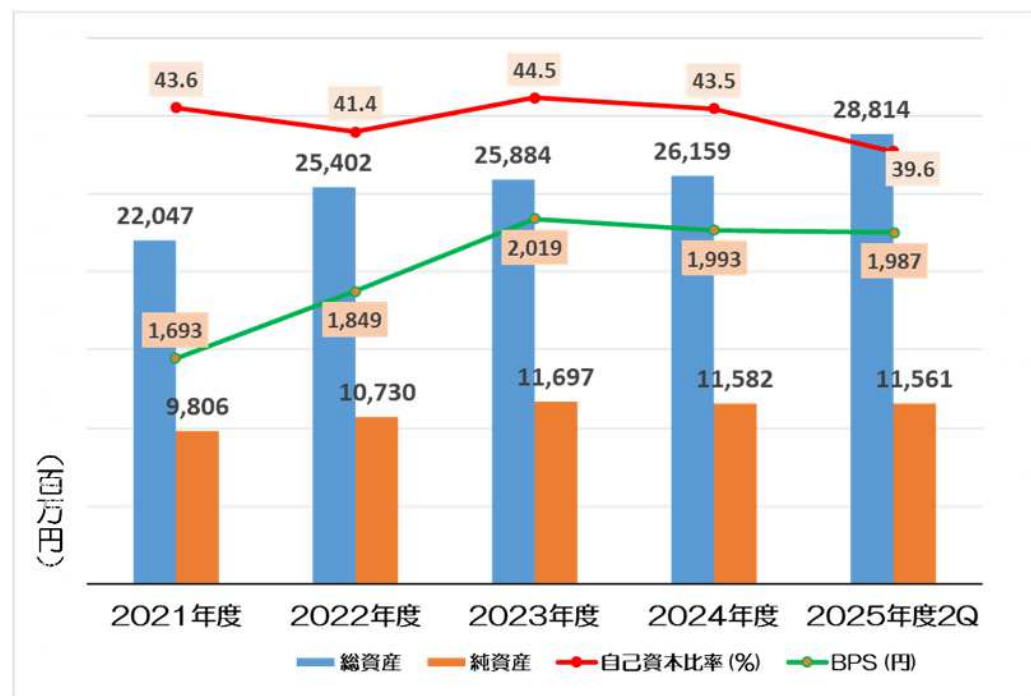
(単位：百万円)

○印 利益の増加
×印 利益の減少



連結貸借対照表

	2024年度 (2025年3月期)	2025年度 第2四半期	増減
総資産 (百万円)	26,159	28,814	+2,655
純資産 (百万円)	11,582	11,561	△21
負債合計額 (百万円)	14,577	17,253	+2,676
自己資本比率 (%)	43.5	39.6	△3.9
1株あたり純資産【BPS】 (円)	1,993	1,987	△5



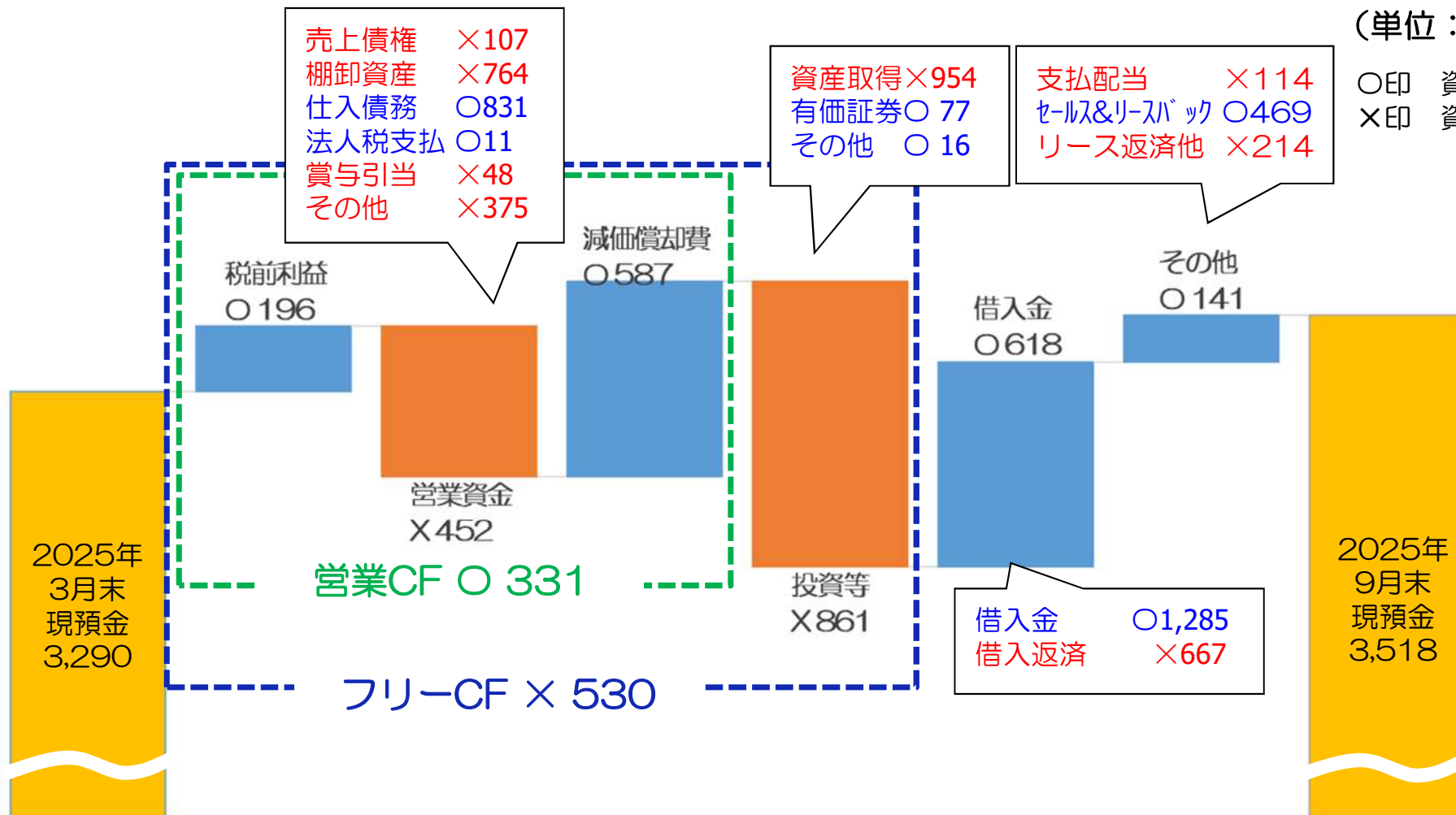
- ◆ 総資産：前年度末比 +2,655百万円の増加
 →流動資産の増加 +1,426百万円（仕掛品等）
 →固定資産の増加 +1,228百万円（リース資産等）
- ◆ 純資産：前年度末比 △21百万円の減少
 →株主資本の増加 +38百万円（資本剰余金等）
 →その他包括利益の減少 △23百万円（為替換算調整勘定等）
- ◆ 負債：前年度末比 +2,676百万円の増加
 →流動負債の増加 +1,042百万円（仕入れ債務等）
 →固定負債の増加 +1,633百万円（長期借入金等）
- ◆ 自己資本比率：39.6% 前年度末比 3.9pt減少

連結キャッシュ・フローの状況

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因

(単位：百万円)

○印 資金の増加
×印 資金の減少



2. 通期連結業績予想、配当予想

2025年度通期連結業績、配当予想

単位記載の無い 項目は百万円	前年度通期実績 (25年3月期)	2025年度 第2四半期累計予想 25年5月13日付	2025年度 第2四半期累計実績	今年度通期予想 25年5月13日付	今年度通期予想 25年11月12日付
売上高	17,284	9,900	8,617	20,700	18,800
営業利益	311	210	△74	700	180
経常利益	419	130	△87	500	40
親会社株主に帰属 する当期純利益	172	60	120	310	130
1株あたり 年間配当金(円)	20円00銭	—	—	30円00銭	20円00銭
配当性向(%)	66.2%	—	—	55.2%	86.0%

- ◆ 2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、駆動システム商品の受注低迷、世界的なEV減速の影響を受けた売上減少、中国のレアアース（希土類）の輸出規制による磁石の入荷停止および海外子会社の不振により11月12日に通期業績予測の見直しを行いました。
- ◆ 業績予測の見直しに伴い、2025年度の配当予想も20円（中間配当10円、期末配当10円）に変更いたします。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主要ターゲットである半導体製造装置市場は、生成AI関連を中心に回復が見られるものの、汎用半導体を含む全体市場の回復は遅れており、当社の受注および売上回復にも時間がかかる見通し。 ◆ 当社としては医療・分析など半導体以外の分野への営業強化を図るとともに、顧客基盤の再構築を進める。並行して海外営業の強化にも取り組む予定。製造面においても、CAD/CAMと製造装置との連携を進め、生産リードタイムの短縮とコスト低減を進める計画。再び業績悪化が進むドイツ子会社については、営業および生産あらゆる面での支援を継続。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ グローバルでEV市場は低迷する一方、HVおよびPHVへのシフトが鮮明になりつつあり、電動車市場全体は今後も大きな成長が期待される。当社はグローバルでのプロジェクトも堅調に獲得できているが、中国での競争は激化している。 ◆ 中国のレアアース（希土類）の輸出規制による車載用モーターコアの売上への影響はリスクとして残る。調達ソースの多角化を図る。 ◆ EV、HEV、PHEVの電動車プロジェクトで受注が拡大しており、進行中のプロジェクトは過去1年で11件増加（40件⇒51件）
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム商品、要素機器ともに需要は緩やかな回復が見込まれ、平面研削盤の新機種投入効果と併せて、受注高および売上高は回復傾向。 ◆ 利益率の高い精機部門で大口の受注も取れていることから、機工計測システムに関しては、前回の業績予測から販売上積みを見込む。

3. TOPICS

創業100周年記念行事

- ◆ 2025年に当社は創業100周年を迎えた。これを祝して9月に東京・ホテルニューオータニにて創業百周年記念祝宴を開催。140名の来賓を迎え、盛大に祝宴を執り行った。
- ◆ 当社の各拠点においても社員が参加する記念式典を開催。
- ◆ 当社の歩みをまとめた「黒田精工100年史」を編纂し、当社を支えてくださった方々へ配布。
- ◆ 「精密のクロダ」のDNAを大事に維持継承しながら、「Challenge & Create」の精神で常に新しい商品を開発し、世界の産業の高度化に貢献し続けていく決意を新たにしました。



創業百周年記念祝宴の様様

日本工作機器工業会ならびに 経済産業省製造産業局からの表彰

- ◆ 2025年5月、日本工作機器工業会より永年会員として表彰を受けるとともに、同工業会への長年にわたる貢献が評価され、代表取締役社長 黒田浩史が経済産業省製造産業局長表彰を受賞。



経済産業省製造局長表彰の受賞

メカトロテックジャパン2025への出展

- ◆ 2025年10月22日から25日にかけて開催されたメカトロテックジャパン2025（会場：ポートメッセなごや）に出展。今年度発売開始した平面研削盤「GS-65CV」を展示した。
- ◆ 本機は自社製ボールねじを用いて3軸駆動を電動化することにより大幅な省エネを実現。加えて、鋳物設計の最適化により剛性を向上させた。
- ◆ 高精度加工を実現する精密ロータリー研削盤「GSR-600」や、誰でも簡単に芯出し作業を行えるハイドロリックツールなども展示。お客様へ最適なソリューションを提案する当社の姿勢をPRした。



精密平面研削盤 GS-65CV

組織人事異動

- ◆ 2025年6月27日および11月1日付で人事異動を実施。左記のメンバーが新たな役割を担うこととなった。

異動日	氏名	役職
6月27日	石井 克則	専務取締役 金型事業部及び機工・計測システム事業部管掌
6月27日	紫波 文彦	常務取締役 全社営業担当
6月27日	沢尾 貴志	取締役 駆動システム事業部長 兼 企画部長
6月27日	福山 修	金型事業部長 兼 企画部長及び長野工場長
11月1日	前田 昌彦	経営企画部長

グローバル電動車プロジェクト

グローバルで**51件**の電動車プロジェクトが進行中(2025年10月時点)



- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>